

C—1 指導案

5年2組 国語科学習指導案

1. 単元名 受け取ろう 棕鳩十さんの残したメッセージを
中核教材 大造じいさんとガン（光村5年下）
補助教材 少年むくはとじゅう物語 理論社
片耳の大シカ 月の輪熊 金色のあしあと 等 棕鳩十の作品
2. 目標 作品を読み重ね、棕鳩十が作品にこめた思いを考えることを通して、登場人物の心情や場面についての描写を味わいながら読むことができる。
3. 評価規準
(関) 自分の考えを持って読み進めたり、進んで読書を広げたりしようとしている。
(話聞) 自分の考えを伝えるために根拠を示して話したり、友だちの考えを聞いたりして話し合っている。
(読) 登場人物の心情や場面についての描写など優れた叙述を味わいながら読んでいる。
作品の叙述や、作者の伝記などから主題を読みとっている。
(書) 友だちとのかかわりのわかるふり返りを書いている。
(言) 叙述にある難しい言葉を辞書で調べ、理解している。
4. 仮説について

学級集団の場において話す・聞く・話し合う価値が子どもたちに実感できるように、教師が年間計画を立て単元構成を工夫していけば、根拠や主張を持って考えを表現し、伝え合う力がつくだろう。

学習指導要領5・6年の読むことの目標は「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる」である。本単元ではテーマの検証に取り組みながらも教科の本質となる指導要領の目標を具現化し確かな読みとりの力と読書を広げようとする態度を育てていきたいと考えている。

【本単元にかかわる児童の実態】

子どもたちは読書好きな児童が多く、4月に行った読書アンケートの結果でも好き、どちらかといえば好きと答えた児童が9割いる。しかし、児童の読書記録を見ると低学年向けの図書や絵本やクイズなどが多く、じっくりと読んで味わう物語は、読む児童が限られていることがわかった。またシリーズ読みをしたり、同じ作者で読書を広げたりしている児童は一部である。

5年生になってから学んだ物語教材は「新しい友達」と「わらぐつの中の神様」である。「新しい友達」では一人一人が立てた学習問題を解決し交流会を持った。そこで自分の考えを裏付ける根拠は叙述から見つけ出すことを確認することができた。「わらぐつの中の神様」では作品構成をとらえたり、作者である杉みき子さんの他作品に触れそのあたたかさを感じ取った。それらをふまえて本単元では、作者の生き方と作品を重ね合わせたり、他の作品と重ね読みをすることを通してより主題に迫る力をつけていきたい。棕鳩十さんは、驚くほどの数の、動物にかかわる物語を残している作家である。そこまでして伝えたい思いは何なのか。本単元ではそのことから出発し、表面的な物語の読み取りだけではなく、作者の思いにまで考えを深められる子どもを育てていきたい。

【前期の研究授業と交流会を通して】

自分たちの話し方、聞き方を自己評価・相互評価したことで、よい話し方・聞き方については自分の力として発揮することができてきている。よりよい話し合いについては、何となくイメージ化できている部分もあるがまだまだあいまいで一つ一つ積み重ねている段階である。

交流会では、ノートのかきかえ（学習日記と呼んでいる）にわかったできたという達成感や、さらに学びたいこと等の記述が多く見られ、個人レベルでの学びは積み重なっていることが確認できた。しかし話し合い後の学習日記には「友だちの～という考えで変わった・深まった」等の記述が少なく、まだまだ話し合いになっていないこと、友だちの話を聞く必要感、価値のある場が設定できていないことがわかった。今後は話し合いによる考えの深まりを子どもたちが実感できる単元を組み、自分だけの達成感ではなくかかわりの見えるふり返りが出るようにしていきたい。そのようなかかわり合いを積み重ねることが、テーマにある根拠や主張のある考えを表現する力を生み出していくと考える。

そこで本単元では、物語の主題についてじっくりと話し合う場を設定し、[話し合うことの価値＝友だちの考えを聞くことで起きる自己の変容]を感じられるようにしたい。

【指導の手立て】

- ① 既習事項や生活経験をもとにして自分と照らし合わせた考えが持てる教材や単元構成を工夫する。
- ② 上記の考えにゆさぶりをかけ、思考を深められるような場を設定する。（資料で、友だちの考えで）
- ③ ノートを積極的に紹介したり、授業に活用したりすることで一人の学びを全体に広めていく。
- ④ 自己評価、相互評価を多く取り入れ、自分や学級集団の成長、反省点が自覚できるようにする。

① 単元構成の工夫について

一次では、『少年むくはとじゅう物語』という伝記の読み聞かせから学習をスタートする。子どもたちと同じ小学5年生のやんちゃな少年＝作者が、大人になり驚くほどの数の、動物にかかわる物語を書いた。そこまでして伝えたい思いは何なのか、作者と作品への興味を持って二次の『大造じいさんとガン』を読めるようにしていきたい。そして個人の設定した学習問題で読み深め、主題に迫りたい。三次では読書を広げ、椋鳩十の他の作品を重ね読みする。そうすることで、一人一人が学びを進めるにつれて自分の考えが深まっていくことを実感できるようにしていきたい。

② 思考を深められる場の設定

一人での読み深め→グループでの話し合い→クラス全体での話し合い・・・と思考を深める場の単位を変えることで友だちの考えを聞くことによる深まりを実感させ、話し合いに価値を持たせたい。(友だちの考えから深める)

また椋鳩十の他作品の中でも「大造じいさんとガン」に作品構造が似ている「片耳の大シカ」や「金色の足あと」、「月の輪熊」を重ね読みの教材とする。一作品で考えるよりも、さらに椋鳩十の残したメッセージが見えてくるのではないだろうか。(資料から深める)

以上のように「友だちの考え」と「資料」の両面から自己の考えの深まりを実感させていきたい。

③ ノートを通して一人の学びを全体に

引き続き、学級通信、ノート掲示を利用して学びを全体に広めていきたい。特に本単元では友だちの考えによって深まったり、考えに変容があったものを取り上げ、その価値を共有していきたい。

④ 自己評価、相互評価を多く取り入れ、自分や学級集団の成長、反省点が自覚できるようにする。

本単元では話し合いのあとに学習日記を交流する場<友だちとの話し合いで深まったことを交流しよう>(第二次中5時・第三次中4時)を学習計画に位置づける。そうすることで友達との学び合いから得られる深まりを個人だけでなく学級全体で実感できるようにし、本単元のノートを見取る視点【自分だけの達成感だけではなく友だちとのかわりが見えるふり返し】がどの子にも表れるようにしたい。

5. 単元構成(総時数12時間)

次	児童の学習活動	支援と評価(○)
1 つ か む ②	自分たちと同じ5年生の少年のお話だ <少年むくはとじゅう物語を読もう> ② ・読み聞かせを聞く ・感想交流をする クマが近づいてきたときドキドキしたけど ジイマがきてくれてほっとしたよ 彦穂少年の心が変わったね 200もの作品を残したなんてすごいな どんな作品なのかな ・学習計画を立て、学習の見通しを持つ 大造じいさんとガンで読み深めよう さらに作品を重ね読みしていこう 椋さんの残したメッセージを考えよう 《受け取ろう 椋鳩十さんの残したメッセージを》 彦穂少年は椋鳩十さんという作家になったよ。 200もの動物に関する作品を残した椋さんは私たちに何を伝えたかったのか、考えていこう。 椋さんのこだわりを理解したいな。	・アニメ絵本をスライドを入れながら読み聞かせすることでどの子にもイメージが持てるようにする。 ・鹿児島県の自然に関する資料、椋鳩十の他作品を紹介、掲示することで関心が高まるようにする。 ・椋鳩十の生きた時代背景を紹介し問題意識を高める。 ○物語の感想を持てている ・これまでの学習を想起し、読みを深めるための学習計画を立てられるようにする。 ・並行読書で他作品を読めるように学級文庫等の環境を準備する。 ・日頃の読書カードを利用して読んだ作品についてはミニ感想を書き、ポートフォリオしていく。 ○これからの学習に意欲を持てている。
2 深 め る ⑥	<大造じいさんとガンを読もう>② ・一人学習を進める 音読 感想 意味調べ 等 ・感想を交流し、作品構造を理解する(変容・時間の経過) ・自分のこだわりの学習問題を作る 作品の構成がわかったよ。 私は～という学習問題を作った。詳しく読んでいこう。	・学習問題の作れない子または考えを深めるのにあまり適当でない学習問題を作っている子への支援として学習問題の作り方のワークシートを用意する。 ○物語を読み、感想を持てている。 ○自分の学習問題を持てている。

	<こだわりの学習問題を解決しよう>② ・ワークシートまたはノートで一人学習をする 読み取ることができたよ ・グループを作り考えを伝え合う。 一人学習で学習問題の答えを見つけられたよ。でも友だちと交流したらもっと考えが深まったよ。 棕さんは読み手に何を伝えたかったのかな。 ・棕さんが大造じいさんとガンを通して伝えたかったことを考える <大造じいさんとガンで棕さんが伝えたかったことは> (本時) ・考えを伝え合う キーワード化した考えと根拠を話す ・学習日記を書く 棕さんが大造じいさんを通して伝えたかったことは～だと思っていたけれど友だちの考えを聞いて～に変わったよ。深まったよ。さらに他の作品を読んで棕さんのメッセージを受け取ろう。 <友だちとの話し合いで深まったことを交流しよう> ・ノートの交流をする 私の発言で考えが変わった友だちがいてくれたよ。 私は友だちの考えを聞いて深まったよ。変わったよ。	・ワークシート・ノートは自己選択にする。 ・「新しい友達」「わらぐつの中の神様」の学習を想起させ、グループ交流での話し合いが深まるためのポイント、進め方を確認する ○学習問題について読みを深めている ○友だちに自分の読みを伝えたり、友だちの読みを聞けたりしている ・聞き手に聞く際の視点を持たせる ・友だちの考えで自分と合うところや違うところをメモをさせ、発言にいかすようにする。 ・主題にせまるための根拠の持ち方を子どもの発言から明確にし、三次で子どもたちが使っていけるようにする。 ○自分の考えを話している ・友だちから何を得たのかわかるように板書をする。 ○進んで友だちのノートの内容を聞こうとしている
3 広 げ る ④	<他の棕鳩十作品を読もう>② 片耳の大シカ 月の輪熊 金色のあしあと ・作品の主題に迫るために次のようなことを考えて読もう 大造じいさんのように気持ちの変わった登場人物はいるかな 残雪のように人の気持ちを変えた動物はいるかな 登場人物の気持ちははじめと後でどのようにかわったかな 人の気持ちを変えた動物はどんなことをしたのかな ・既習の根拠の持ち方を生かして考える 他の作品を重ねて読むことで、棕さんが読み手に伝えたかったことがさらにわかってきたよ。 <棕さんが伝えたかったことは> ・考えを伝え合う キーワード化した考えと根拠を話す 違う作品だけど、伝えたかったことが重なっているよ 棕さんが伝えたかったことは～だと考えを深められたよ。 棕鳩十さんの残したメッセージを受け取ることができたよ。 <友だちとの話し合いで深まったことを交流しよう> ・ノートの交流をする 私の発言で考えが変わった友だちがいてくれたよ。 私は友だちの考えを聞いて深まったよ。変わったよ。	・大造じいさんとガンと比較的作品構造が似ている作品を重ね読みの教材とすることで考えを深められるようにする。 ・自分の力で主題に迫っていけるように、左記のような視点で読めるワークシートを利用する ○進んで他の作品を読もうとしている ○視点をもとに主題を読み取っている ・共通の重ね読みの教材だけではなく個人がこれまで積み上げてきた読書カードからの発言も認める。 ○主題について考えを持っている。 ○考えを作品の内容を根拠にしながら発言している。 ・友だちから何を得たのかわかるように板書をする。 ○進んで友だちのノートの内容を聞こうとしている

- (1) 題目 大造じいさんとガンで椋さんが伝えたかったことは
- (2) 本時のねらい 自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いたりすることを通して主題に対する自分の考えをより深めることができる。
- (3) テーマにかかわって
子どもたちは様々な叙述や時代背景を根拠として自分の考えを訴えてくると思われる。一人一人がキーワード化した考えは様々なものになるだろう。しかしその根拠に目を向けよく聞くと友だちとつながり合い、どれも遠い話ではないことに気付く。自分の主張ばかりをして友だちを受け入れなければつながりは見えてこない。本時は友だちの考えを最後までよく聞くことが大切な一時間である。相手を一度自分の中に受け入れ、さらに考えを述べる。そんな表現の大切さに気付く一時間になれば…と思う。そのような時間が生み出せれば、友だちとのかかわりのわかる学習日記が増えるだろう。
- (4) 学習過程

児童の活動	時間	支援と評価
・ 本時のめあてを確認する ＜大造じいさんとガンで椋さんが伝えたかったことは＞ ・ 考えを伝え合おう 考えは…（キーワード化して） 根拠は… 動物のかしこさ 大造じいさんの言葉で 「…おまえみたいならぶつをおれはひきょうなやり方でやっつけたかあないぞ…」 動物を大切に 残雪や大造じいさんの行動で ・ 残雪の目には人間もハヤブサもありませんでした。ただ… ・ …おりのふたをいっぱいに開けてやりました。 命の大切さ 時代背景で 戦争の時代で言いたいことが言えなかった。 作品に託している。 思いやり やさしさの気持ち 時代背景で 戦争の時代で言いたいことが言えなかった。 作品に託している。 仲間を守ることの大切さ 時代背景で 戦争の時代で言いたいことが言えなかった。 作品に託している。 勇気 愛情 成長 時代背景で 戦争の時代で言いたいことが言えなかった。 作品に託している。 あきらめないことの大切さ 時代背景で 戦争の時代で言いたいことが言えなかった。 作品に託している。 自分の考えや心を変える大切さ 時代背景で 戦争の時代で言いたいことが言えなかった。 作品に託している。 自分の意志で言えたり 行動できたりするすばらしさ 時代背景で 戦争の時代で言いたいことが言えなかった。 作品に託している。 ・ 学習日記を書く ＜友だちと考えを伝え合って…自分の考えを見つめ直そう＞ 日記の視点は？ 友だちの考えを聞いて深まったこと 友だちの考えを聞いて自分の考えが変わったこと 新たに考えたこと さらに生まれた疑問 などが書けそうだね 椋さんが大造じいさんを通して伝えたかったことは～だと思っていたけれど友だちの考えを聞いて～に変わったよ。深まったよ。さらに他の作品を読んで椋さんのメッセージを受け取ろう。	5 30 10	・ 自分の考えをキーワード化し短く述べた上で根拠を叙述や時代背景をもとに話させる。 ・ 主題にせまるための根拠の持ち方を子どもの発言から明確にし、三次で子どもたちが使っていけるようにする。 ・ キーワードではなく叙述や作品背景などの根拠をもとに板書でつなげ、根拠を聞き合えるようにする。 ・ 友だちの考えで自分と合うところや違うところをメモをさせ、発言にいかすようにする。 ○自分の考えを根拠とともに話している ○友だちの考えを自分の学習日記に取り入れ、書けている。 ↓ ★本時のノートを見取る視点